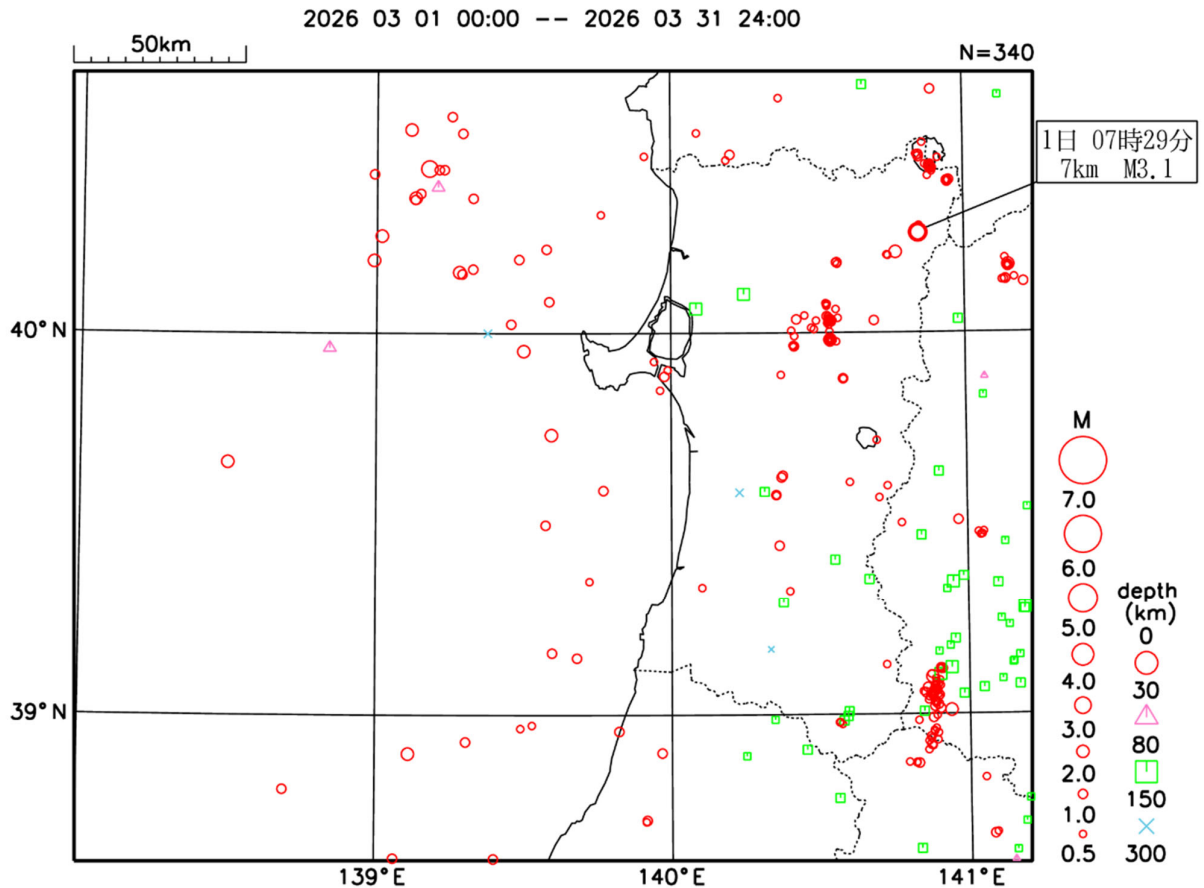


秋田県月間地震概況

秋田地方気象台

2026年3月

【震央分布図】



〈3月の地震概況〉

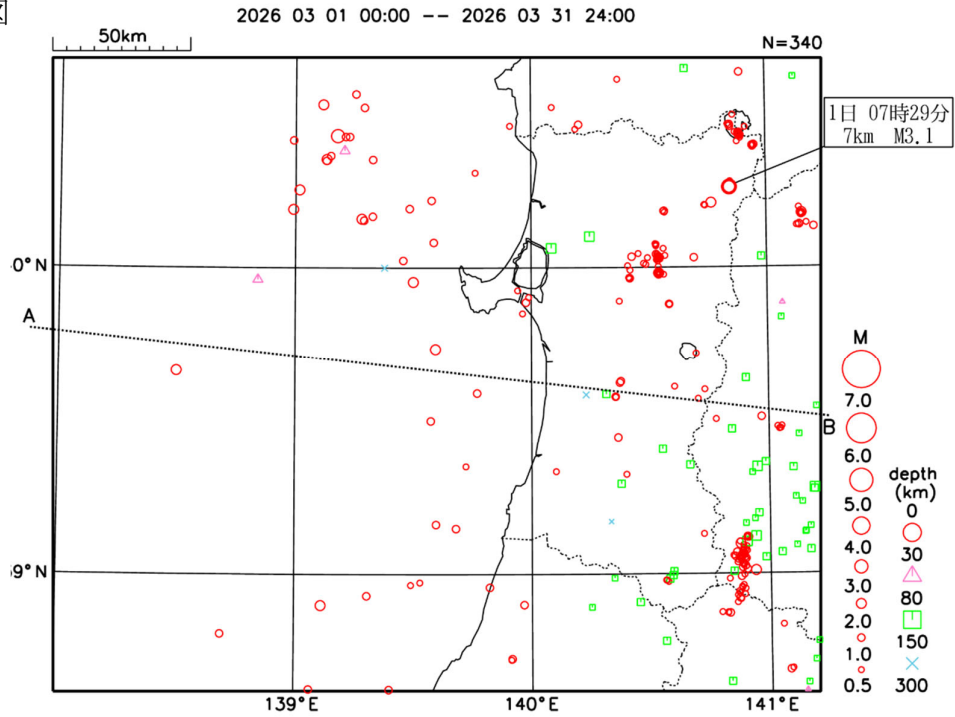
この期間、秋田県内で震度1以上を観測した地震は8回（2月：3回）で、図の範囲内を震源とする地震が1回、図の範囲外を震源とする地震は7回であった。

1日07時29分に秋田県内陸北部の深さ7kmでM3.1の地震が発生し、鹿角市、小坂町で震度1を観測した。この地震は地殻内で発生した。

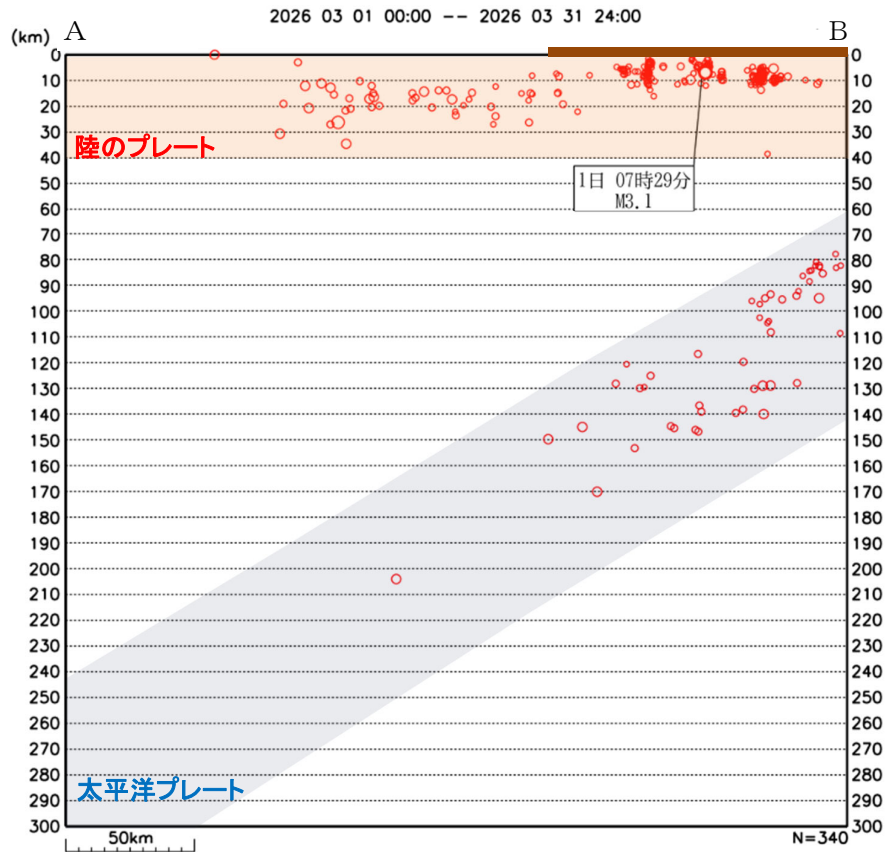
26日23時18分に三陸沖（図の範囲外）の深さ15kmでM6.7の地震が発生し、岩手県で震度4を観測したほか、北海道、東北、関東、東海、甲信越地方にかけて震度3から1を観測した。県内では、秋田市、横手市、由利本荘市、大仙市、にかほ市、井川町で震度3を観測したほか、全域で震度2から1を観測した。

この地震の震央付近では、3月1日から31日にかけて震度1以上を観測する地震が12回（震度4：1回、震度3：3回、震度2：1回、震度1：7回）発生し、このうち、秋田県内では震度1以上を観測する地震は4回（震度3：1回、震度2：2回、震度1：1回）であった。この4回の地震は、太平洋プレートと陸のプレートの境界で発生した。

【震央分布図】



【断面図】 (震央分布図内の直線A-Bを断面として投影した震源の深さの分布)



- ※ 太平洋プレート及び陸のプレートの位置は、地震発生状況を考慮して描いた大まかなものである。
- ※ —— は陸地の大まかな位置を示している。
- ※ 陸地から離れた海域ほど、震源の深さ精度は良くない。
 なお、海域地殻内の地震の震源（日本海の浅い地震など）は、実際にはより浅いものが多いと考えられる。

秋田県で震度 1 以上を観測した地震の表

※今後の精査により、震源や震度のデータが追加されることがある。

期間 2026年3月1日～2026年3月31日

発震時	震央地名	北緯	東経	深さ	規模
各地の震度					
2026年03月01日07時29分	秋田県内陸北部	40° 15.6' N	140° 50.6' E	7km	M3.1
秋田県	震度 1：鹿角市花輪＊ 小坂町小坂砂森＊				
2026年03月07日05時31分	宮城県沖	38° 45.5' N	142° 26.2' E	46km	M4.9
秋田県	震度 1：八郎潟町大道＊ 井川町北川尻＊ 大潟村中央＊ 秋田市河辺和田＊ 秋田市雄和新波＊ 由利本荘市前郷＊ 横手市大雄＊ 大仙市刈和野＊ 大仙市高梨＊				
2026年03月08日22時08分	三陸沖	39° 22.7' N	143° 13.7' E	14km	M5.6
秋田県	震度 2：井川町北川尻＊ 秋田市雄和新波＊ 大仙市刈和野＊ 大仙市高梨＊				
	震度 1：能代市二ツ井町上台＊ 男鹿市角間崎＊ 五城目町西磯ノ目 潟上市昭和大久保＊ 潟上市飯田川下虻川＊ 潟上市天王＊ 三種町鹿渡＊ 三種町森岳＊ 秋田市山王 秋田市雄和女米木 秋田市河辺和田＊ 由利本荘市石脇 由利本荘市岩城内道川＊ 由利本荘市西目町沼田＊ 由利本荘市矢島町矢島町＊ 由利本荘市岩谷町＊ 由利本荘市前郷＊ にかほ市平沢＊ にかほ市金浦＊ 大館市桜町＊ 大館市比内町扇田＊ 鹿角市花輪＊ 北秋田市花園町 北秋田市新田目＊ 横手市雄物川町今宿 横手市中央町＊ 横手市大雄＊ 横手市平鹿町浅舞＊ 湯沢市川連町＊ 羽後町西馬音内＊ 秋田美郷町六郷東根 秋田美郷町土崎＊ 大仙市北長野＊ 大仙市南外＊ 大仙市太田町太田＊ 大仙市大曲花園町＊ 大仙市神宮寺＊ 仙北市角館町中菅沢 仙北市西木町上桧木内＊ 仙北市田沢湖生保内上清水＊ 仙北市角館町小勝田＊ 仙北市田沢湖生保内宮ノ後＊ 仙北市西木町上荒井＊				
2026年03月08日22時17分	三陸沖	39° 24.3' N	143° 13.6' E	17km	M6.1
秋田県	震度 2：能代市緑町 能代市追分町＊ 能代市上町＊ 五城目町西磯ノ目 井川町北川尻＊ 潟上市昭和大久保＊ 潟上市飯田川下虻川＊ 潟上市天王＊ 三種町森岳＊ 秋田市山王 秋田市雄和女米木 秋田市河辺和田＊ 秋田市雄和新波＊ 由利本荘市石脇 由利本荘市桜小路＊ 由利本荘市鳥海町伏見＊ 由利本荘市岩城内道川＊ 由利本荘市西目町沼田＊ 由利本荘市矢島町矢島町＊ 由利本荘市岩谷町＊ 由利本荘市前郷＊ にかほ市平沢＊ にかほ市金浦＊ にかほ市象潟町浜ノ田＊ 大館市桜町＊ 大館市比内町扇田＊ 鹿角市花輪＊ 北秋田市花園町 横手市雄物川町今宿 横手市安田柳堤地内＊ 横手市中央町＊ 横手市大雄＊ 横手市平鹿町浅舞＊ 湯沢市川連町＊ 羽後町西馬音内＊ 東成瀬村椿川＊ 秋田美郷町土崎＊ 大仙市協和境唐松岳＊ 大仙市刈和野＊ 大仙市北長野＊ 大仙市南外＊ 大仙市太田町太田＊ 大仙市大曲花園町＊ 大仙市高梨＊ 大仙市神宮寺＊ 仙北市角館町中菅沢 仙北市西木町上桧木内＊ 仙北市田沢湖生保内上清水＊ 仙北市田沢湖田沢＊ 仙北市田沢湖生保内宮ノ後＊ 仙北市西木町上荒井＊				
	震度 1：能代市二ツ井町上台＊ 男鹿市男鹿中 男鹿市船川＊ 男鹿市角間崎＊ 藤里町藤琴＊ 八郎潟町大道＊ 大潟村中央＊ 三種町鶴川＊ 三種町鹿渡＊ 八峰町峰浜目名潟＊ 由利本荘市東由利老方＊ 大館市比内町味噌内 大館市早口＊ 小坂町小坂砂森＊ 上小阿仁村小沢田＊ 北秋田市米内沢＊ 北秋田市新田目＊ 横手市増田町増田＊ 横手市大森町＊ 横手市山内土沢＊ 横手市十字町＊ 湯沢市沖鶴 湯沢市寺沢＊ 湯沢市佐竹町＊ 湯沢市横堀＊ 湯沢市皆瀬＊ 東成瀬村田子内＊ 秋田美郷町六郷東根 仙北市角館町小勝田＊				
2026年03月10日00時45分	檜山地方	42° 02.1' N	140° 21.1' E	145km	M5.8
秋田県	震度 1：三種町鶴川＊ 三種町森岳＊ 大館市早口＊ 大仙市高梨＊				
2026年03月14日04時55分	三陸沖	39° 21.9' N	143° 23.2' E	14km	M5.2
秋田県	震度 1：井川町北川尻＊ 秋田市河辺和田＊ 秋田市雄和新波＊ 由利本荘市西目町沼田＊ 由利本荘市前郷＊ 大館市桜町＊ 大館市比内町扇田＊ 横手市大雄＊ 大仙市刈和野＊ 大仙市大曲花園町＊ 大仙市高梨＊ 仙北市田沢湖生保内宮ノ後＊				

発震時	震央地名	北緯	東経	深さ	規模
各地の震度					
2026年03月26日16時37分	青森県東方沖	40° 41.6' N	142° 40.7' E	41km	M4.7
秋田県	震度 1：大館市桜町＊ 鹿角市花輪＊ 小坂町小坂砂森＊ 北秋田市花園町 大仙市高梨＊				
2026年03月26日23時18分	三陸沖	39° 26.6' N	143° 18.1' E	15km	M6.7
秋田県	震度 3：井川町北川尻＊ 秋田市雄和新波＊ 由利本荘市西目町沼田＊ 由利本荘市前郷＊ にかほ市平沢＊ 横手市大雄＊ 大仙市刈和野＊ 大仙市高梨＊				
	震度 2：能代市緑町 能代市常盤山谷 能代市追分町＊ 能代市上町＊ 能代市二ツ井町上台＊ 男鹿市角間崎＊ 藤里町藤琴＊ 五城目町西磯ノ目 八郎潟町大道＊ 大潟村中央＊ 潟上市昭和久保＊ 潟上市飯田川下虻川＊ 潟上市天王＊ 三種町鶴川＊ 三種町森岳＊ 秋田市山王 秋田市雄和女米木 秋田市河辺和田＊ 由利本荘市石脇 由利本荘市桜小路＊ 由利本荘市鳥海町伏見＊ 由利本荘市岩城内道川＊ 由利本荘市東由利老方＊ 由利本荘市矢島町矢島町＊ 由利本荘市岩谷町＊ にかほ市金浦＊ にかほ市象潟町浜ノ田＊ 大館市比内町味噌内 大館市桜町＊ 大館市比内町扇田＊ 大館市早口＊ 鹿角市花輪＊ 上小阿仁村小沢田＊ 北秋田市花園町 北秋田市米内沢＊ 北秋田市新田目＊ 横手市雄物川町今宿 横手市安田柳堤地内＊ 横手市中央町＊ 横手市増田町増田＊ 横手市大森町＊ 横手市山内土淵＊ 横手市平鹿町浅舞＊ 横手市十文字町＊ 湯沢市沖鶴 湯沢市川連町＊ 湯沢市佐竹町＊ 湯沢市横堀＊ 湯沢市皆瀬＊ 羽後町西馬音内＊ 東成瀬村椿川＊ 東成瀬村田子内＊ 秋田美郷町六郷東根 秋田美郷町土崎＊ 大仙市協和境唐松岳＊ 大仙市北長野＊ 大仙市南外＊ 大仙市太田町太田＊ 大仙市大曲花園町＊ 大仙市神宮寺＊ 仙北市角館町中菅沢 仙北市西木町上桧木内＊ 仙北市田沢湖生保内上清水＊ 仙北市角館町小勝田＊ 仙北市田沢湖田沢＊ 仙北市西木町上荒井＊				
	震度 1：男鹿市男鹿中 男鹿市船川＊ 三種町鹿渡＊ 八峰町峰浜目名潟＊ 小坂町小坂砂森＊ 北秋田市阿仁水無＊ 湯沢市寺沢＊				

(注) 地震の震源要素等は暫定値であり、再調査により変更することがある。

各地の震度は秋田県のみを示し、＊は地方公共団体または国立研究開発法人防災科学技術研究所の観測点である。

本資料は、国立研究開発法人防災科学技術研究所、北海道大学、弘前大学、東北大学、東京大学、名古屋大学、京都大学、高知大学、九州大学、鹿児島大学、国立研究開発法人産業技術総合研究所、国土地理院、国立研究開発法人海洋研究開発機構、公益財団法人地震予知総合研究振興会、青森県、東京都、静岡県、神奈川県温泉地学研究所及び気象庁のデータを用いて作成している。また、2016年熊本地震合同観測グループのオンライン臨時観測点（河原、熊野座）、2022年能登半島における合同地震観測グループによるオンライン臨時観測点（よしが浦温泉、飯田小学校）、2025年トカラ列島近海における合同地震観測グループによるオンライン臨時観測点（平島、小室島）、EarthScope Consortiumの観測点（台北、玉峰、寧安橋、玉里、台東）のデータを用いて作成している。

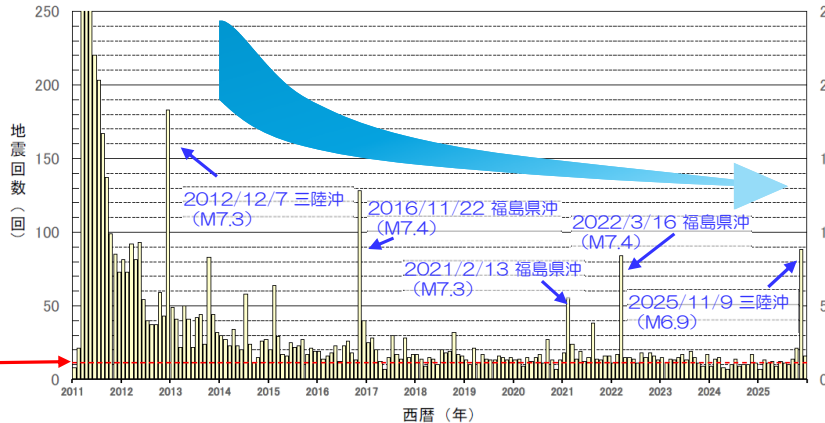


東日本大震災後15年間の地震活動

1. 余震域内の地震活動は長期的にみると地震回数が減少している

「平成23年（2011年）東北地方太平洋沖地震」の余震域での毎月の地震回数の推移（マグニチュード4.0以上）
集計期間：2011年（平成23年）～2025年（令和7年）

2011年3月：3116回、4月：786回、5月：378回



(参考)
2001年～2010年の
M \geq 4.0の地震回数
月平均値：11.5回
月中央値：9回

2001年～2010年の
M \geq 4.0の地震回数
月平均値

2021年3月の時点で
大震災直後よりも
25分の1以下にまで
減少しているよ



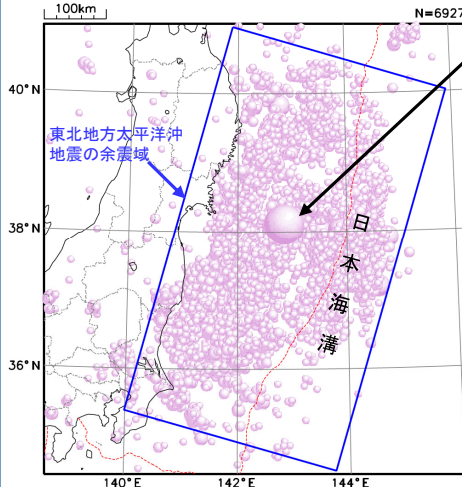
大震災直後の一年間と比べると、地震回数は時々一時的な回数の増加はみられますが、長期的にみればかなり減少しました。活動が低下してきたことから、東北地方太平洋沖地震の余震なのか、従来からの通常地震活動の一環なのかどうかの判別がつきにくくなっています。このため気象庁では、東北地方太平洋沖地震の余震と考えられる、という表現は使わなくなりました(※)。 ※(参考)令和3年4月1日気象庁お知らせ「東北地方太平洋沖地震の余震域で発生する規模の大きな地震の報道発表資料での表現の変更について」

2. 震災前よりも地震活動が活発な領域が現在も残っている

東北地方太平洋沖地震の余震域の震央分布 (M \geq 4.0以上、深さすべて)

2011年～2013年

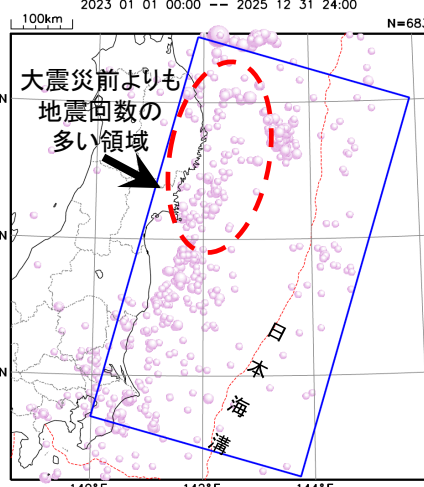
2011 01 01 00:00 -- 2013 12 31 24:00



東北地方太平洋沖地震の震央位置

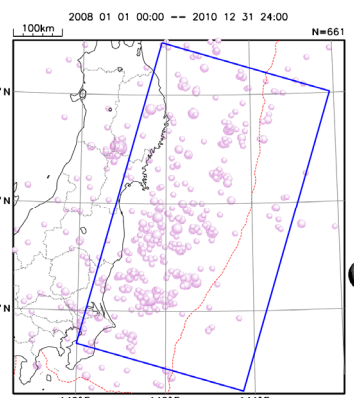
2023年～2025年

2023 01 01 00:00 -- 2025 12 31 24:00



大震災前よりも
地震回数の
多い領域

(参考)東北地方太平洋沖地震
発生前3年間の地震活動
(2008年～2010年)



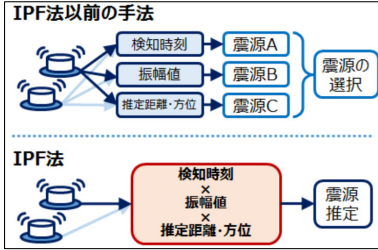
15年経過した現在でも、本震で断層のずれが大きかった領域の周辺(岩手県沖～宮城県沖の沿岸部など)で、東北地方太平洋沖地震発生前よりも地震回数の多い状態が続いています。



東日本大震災後の気象庁の 地震津波に関する主な取り組み（1）

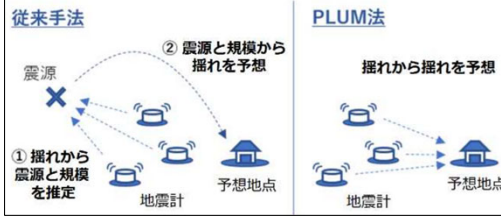
1. 緊急地震速報

震源決定手法の改善(IPF法)
※Integrated Particle Filter法



震源・マグニチュードの推定
精度向上を図る

巨大地震への対応(PLUM法)
※Propagation of Local Undamped Motion 法



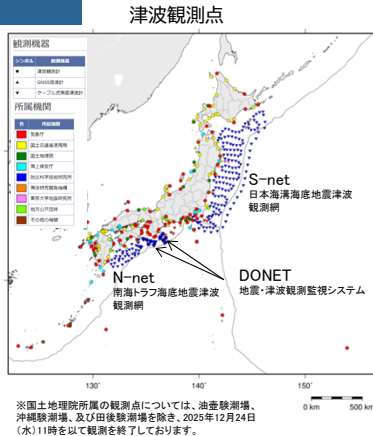
東北地方太平洋沖地震のような巨大地震の場合も、震源から遠い地域に対しても適切に警報を発表する。

気象庁は震源決定手法の改善(IPF法、平成28年)や巨大地震への対応(PLUM法、平成30年)を行い、その結果、以前よりも緊急地震速報の予測精度は向上しました。また、令和5年には震度に加え高層ビルなどで揺れが大きくなる「長周期地震動」の階級の予測も発表基準に加えました。*

※長周期地震動階級3以上を予測した場合に
長周期地震動階級3以上を予測した地域に対して発表

2. 津波警報等の改善

種類	発表される津波の高さ	発表基準
大津波警報	10m 超 (10m < 予想される津波の最大波の高さ)	予想される津波の最大波の高さが高いところで 3mを超える場合
	10m (5m < 予想される津波の最大波の高さ ≤ 10m)	
津波警報	5m (3m < 予想される津波の最大波の高さ ≤ 5m)	
	3m (1m < 予想される津波の最大波の高さ ≤ 3m)	予想される津波の最大波の高さが高いところで 1mを超え 3m以下の場合
津波注意報	1m (0.2m ≤ 予想される津波の最大波の高さ ≤ 1m)	予想される津波の最大波の高さが高いところで 0.2m以上 1m以下の場合 であって、津波による災害のおそれがある場合



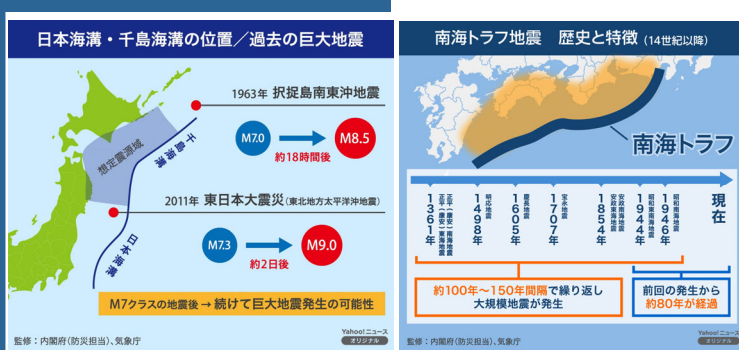
※国土地理院所属の観測点については、津島除潮場、沖ノ島除潮場、及び田後除潮場を除き、2025年12月24日(水)11時を以て観測を終了しております。

東北地方太平洋沖地震時に発表した津波警報の課題に対して、津波警報・注意報の発表方法や表現を変更しました。(平成25年3月7日)

国立研究開発法人防災科学技術研究所の地震津波観測網(S-net、DONET、N-net)のデータを活用し、津波警報等の更新及び津波情報の発表の迅速化や精度向上が図られています。

S-net、DONETの活用は平成28年7月28日から、N-netの活用は令和6年11月21日から開始

3. 巨大地震関連



東日本大震災の教訓を背景として、日本周辺で発生が想定される超巨大地震について、現在「北海道・三陸沖後発地震注意情報」、「南海トラフ地震に関連する情報(南海トラフ地震臨時情報、南海トラフ地震関連解説情報)」という2つの情報が運用されています。

4. 観測点の通信機能・電源機能の強化

地震観測点(機能強化前)

衛星バックアップ回線強化

停電時電源の機能強化

東北地方太平洋沖地震発生翌日の地震計・震度計の稼働状況

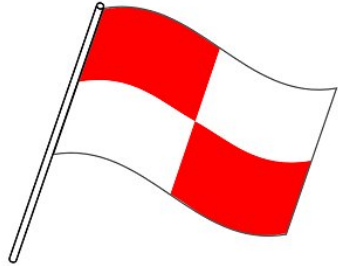
東日本大震災では広域で停電や通信回線の途絶がありました。そのため、各観測点でバックアップ回線の確保や、停電後3日間は運用できるように電源機能を強化しました。





東日本大震災後の気象庁の 地震津波に関する主な取り組み（2）

5. 津波フラッグ



津波フラッグ



津波フラッグ掲出の例

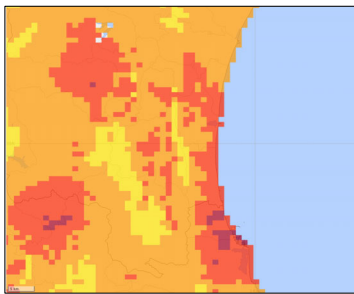
津波警報等は、テレビやラジオ、携帯電話、サイレン、鐘等、様々な手段で伝達されます。

令和2年6月から海水浴場等で「津波フラッグ」による視覚的伝達が行われています。

「津波フラッグ」を用いることで、聴覚に障害をお持ちの方や、波音や風で音が聞き取りにくい遊泳中の方などにも津波警報等の発表をお知らせできます。

6. 推計震度分布図の高度化

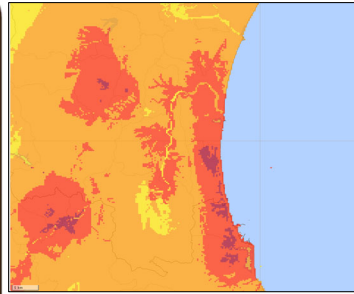
1kmメッシュ（従来の手法）



新しい推計震度分布図

- 250m地盤データ
従来の1kmから変更
- 震度データ(観測値)
従来の手法でも使用
- 緊急地震速報の
震度予測技術
技術開発を行い、
新たに活用

250mメッシュ（新しい手法）

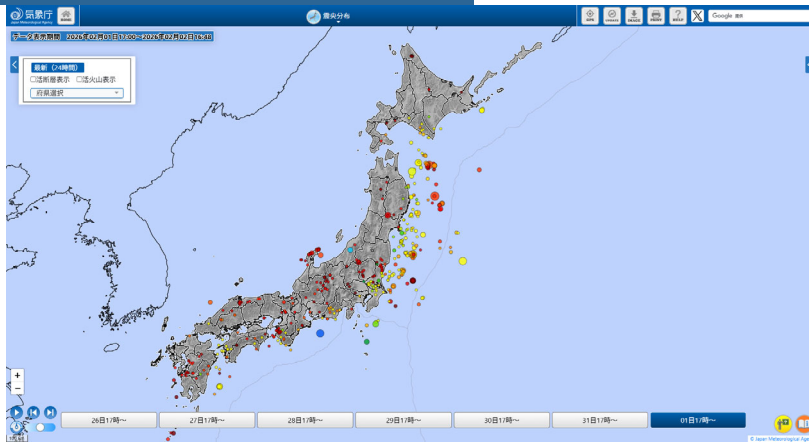


推計震度分布図は震度観測点のない地域を含む震度分布を面的に推計した図で、適切な救援ルート・避難場所の選定や、応急対応すべき優先箇所の判別などに活用いただいています。

令和5年2月から、高解像度化及び震度の推計手法の改善を行った図の提供をしています。

推計震度分布図の作成にあたっては、2021年(令和3年)2月13日23時07分に発生した福島県沖の地震(M7.3、最大震度6強)の震度データを使用しました。

7. 自動処理震源の導入



平成28年4月1日からは震度1に満たないような規模の小さな地震については自動処理によって決定された震源を活用しています。

これにより、大量の震源を処理できるようになるとともに、大きな地震が発生した際にも、より最近までの活動状況を地震解説資料等に反映できるようになり、気象庁HPでもより直近の地震活動状況が閲覧できるようになりました。

気象庁ホームページ 防災情報「震央分布」のページ
<https://www.jma.go.jp/bosai/map.html#contents=hypo>

